



西早稻田中だより

新宿区立西早稻田中学校 03(3205)9674

「飛躍の年に向けて」

西早稻田中学校校長 塚本 桂子

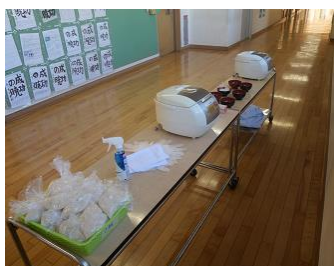
昨年は本校にとって大きな節目となる、20周年記念式典を開催することができました。これまで本校を支えてくださった多くの方々にご参りいただき、学校の歩みを振り返るとともに、未来への展望を共有する貴重な機会となりました。式典で見られた生徒の皆さんの凛とした姿は、学校の歴史を受け継ぎ、次の時代を担う存在としての頼もしさを感じさせるものでした。それに関連して、20年目を迎えた昨年度は、ウェルビーイングを意識した周年記念行事を企画、実施しました。（1年：筋肉体操、2年：デフリンピック選手招聘、3年：金融教育 今年度も引き続き実施予定です。）これは、健康やよりよく生きることの大切さを、生徒一人ひとりに広い視野で認識してほしいとのねらいがあります。また学校としては、安心して気持ちを表現できる環境を整えることが何より重要だと考えています。学級活動や道徳の時間を活用し、自分の気持ちに気づくこと、相手の立場に立って考えること、言葉の選び方を振り返ることなど、心の健康を支える学びも積み重ねてきました。

さらに9月より、不登校生徒の指導の充実のため、別室（ほっとルーム）の対応を開始しました。教室以外の部屋で、個々の状況に応じた支援を行う取り組みです。学習のみならず心の負担を軽減し、再び学校生活へとつながるきっかけをつくることを目的としています。生徒一人ひとりの状況に寄り添い、学校全体で支えていく姿勢を今後も大切にしていきたいと考えています。

さて、今年の干支は「丙午（ひのえうま）」、馬年です。馬は古くから「勢い」「前進」「飛躍」を象徴する動物として親しまれてきました。力強く駆け抜けるその姿は、今年1年を通して私たちに大きな示唆を与えてくれます。昨年の経験を糧とし、心の健康を大切にしながら、一步ずつ着実に前へ進む姿勢を育んでいきたいと考えています。生徒一人ひとりが自分らしく成長し、仲間と共に未来へ向かって力強く歩んでいけるよう、学校としても引き続き支援を続けてまいります。保護者の皆様には、本校の教育への深いご理解と温かいご協力に心より感謝申し上げます。生徒たちが安心して学び、健やかに成長できる環境は、皆様の支えによって成り立っています。今年も変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

1 年食育 「おにぎり作り」

1学年は5月19日（月）から21日（水）の3日間、「自然に親しみ、自然から学ぶ態度を育む。」「集団生活を通して、協力する心、思いやりの心、規律を守る心の大切さを学ぶ。」という目的のもと、緑に囲まれた長野県の女神湖へ移動教室に行ってきました。その中の体験学習の一つとして、全員で田植えを行いました。生徒たちは泥に足を取られ、慣れない作業に悪戦苦闘しながらも普段はできない貴重な経験を楽しみ、充実した時間を過ごすことができました。



その時に植えた米は、今年の酷暑の影響で収穫できるまでに時間がかかりましたが、無事に12月に学校へ届きました。12月18日（木）の総合の授業は、食育授業の一環として、①自分たちで田植え体験したお米をおにぎりにして食べる、②田植えからお米の収穫までの作業工程を学ぶ、③田植え体験を実施してくださった方たちに感謝の手紙を書く、という流れで行いました。





生徒たちの反応は大変好評で、「お米1粒1粒の味をこんな風に味わったことがなかった」、「普段何気なく食べているお米は、大変な手間暇をかけて作られていたことを初めて知った」、「作ってくださった農家の方に感謝の気持ちでいっぱい」という感想が多くありました。

お米は、お土産として1合ずつ個包して生徒に渡しました。ご家庭に持ち帰った米はおいしく食べていただけたでしょうか。今後も食育の授業を通して、食の大切さを伝えていこうと思います。

(1学年 食育担当)

2年 伝統文化理解教育

10月30日(木)2校時に、富田染工業代表取締役の富田篤様を講師として招き、伝統文化理解教室を行いました。実際に染物や型紙を手にしたり、貴重なお話を聞いたりすることで、日本の伝統的な文化について理解を深めることができました。

[参加した生徒の感想]

- ・着物を買う人が少なくなってきた、伝統を続けていくことがとても大変だということがわかりました。伝統工芸品を買うなどして、ずっと続いていけるように私も心がけたいと思いました。
- ・知らなかったことをたくさん知ることができました。例えば、着物の基本的な着方や、作り方などです。江戸小紋は着物だけではなく、タイルなどにも使うことで、伝統文化を残そうとしていることがすごいと思いました。



(2学年 伝統文化理解教育担当)

手話言語週間

11月17日(月)~21日(金)に手話言語週間を行いました。東京都手話言語条例や簡単な挨拶について動画を視聴して学びました。今年はデフリンピック100周年記念大会ということもあり、デフスポーツについて、デフアスリートの方のインタビューなどを通して学びました。また、スポーツ観戦の際に役立つサインエールを、動画の真似をしながら手や体を動かし、実際に行いました。

2年生は11月20日(木)にデフリンピック観戦があり、東京体育館で卓球の試合を観戦しました。様々な国の選手に対して手話で拍手を送ったり、「がんばれ」や「大丈夫」などのサインエールを送ったりすることができました。特に日本の選手が試合をしているときは、サインエールにも力が入っているようでした。



以下に、生徒の感想の一部を紹介します。

「手話ができるようになればいろいろな人たちと話せるようになるのだと学んだ。」

「手話でコミュニケーションをしているところを見てとても楽しそうだったので、耳が聞こえなくても話せる手話の大切さに気づくことができました。」

「互いに手話を使って楽しそうに観戦しているところを見て、手話も日本語と英語のような他の言語と同じなんだと改めて思いました。」

(手話言語週間担当)

声よ響け 個性よ輝け



10月25日(土)に行われた西早稲田祭。

合唱コンクールの部では、西早稲田中生の歌声が響き渡りました。



今年の西早稲田祭も昨年以上に盛り上がりました。今年は全校合唱があり、今までよりもさらに良い声を響かせられるか不安と期待が心の中で入り交じった状態で本番を迎えました。

実際は、西早稲田祭は大成功と言っているほどよい行事になりました。午前の部のクラス合唱。初めてとは思えないほどの歌声を披露した1年生。素晴らしいハーモニーの2年生。そして、最上級生として表現の工夫とそれぞれのクラスらしい歌声に仕上げた3年生。各学年、個性があふれる最高の歌声が響いていました。

また、午後の部の舞台発表は、どの文化部の発表も、部員一人ひとりの個性が輝いていたと思います。会場全体が一体になり、ものすごい盛り上がりとなりました。

皆が全力で役割を果たし、舞台に立った西早稲田祭。全員が一生懸命練習したことにより、よい時間となりました。ありがとうございました。

(西早稲田祭実行委員長 3年 Nくん)



「声よ響け 個性よ輝け」。みんなで協力し合って一人ひとりが活躍できるような、個性を大切に一人ひとりが輝けるような西早稲田祭にしたいという思いが今回のスローガンに込められていました。また、心を動かすような西早稲田祭にしたい、みんなで団結して伝統をつなぐとともに、先輩方の歴史を引き継ぎ新しい未来を作っていきたい、そんな思いをもって生徒全員で協力して準備してきました。

合唱の魅力の一つに、「みんなで声も気持ちもそろえる一体感」があると思います。前向きな言葉がけや仲間を思いながら生徒たち主体でクラス練習を進め、それぞれのクラスらしい合唱をこつこつと創り上げていきました。今回のように仲間とともに一つの目標に向かい、努力を積み上げた時間は、いつか生徒一人ひとりにとってかけがえのないものになると思います。今年も多くの保護者や地域の皆様に、生徒たちの一生懸命な姿を見ていただくことができ、嬉しく思います。ご協力ご来場いただいた皆様、ありがとうございました。

(西早稲田祭 担当)

